

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第6号(10月))

標記について、次のとおり発表します。

《10月の病虫害発生予報》

<果樹類>

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
もも				せん孔細菌病	
	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん		黒点病			
			ミカンハダニ		
果樹類全般		果樹カメムシ類			

<野菜類>

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		アザミウマ類		褐紋病	
(キャベツ・しろな あぶらな科野菜 等)			根こぶ病		
			コナガ		
		ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)		シロイチモジヨトウ	

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり		うどんこ病			
		炭そ病・褐斑病			
		べと病			
			ウリノメイガ		
			コナヅラミ類		
		ミナミキイロ アザミウマ			
トマト			コナヅラミ類		
			葉かび・すすかび病		

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き類 野菜類 全般				アブラムシ類		
				ハダニ類		
				ハスモンヨトウ		
					シロイチモジ ヨトウ	
				オオタバコガ		

《今月のトピックス》

■発生が平年よりやや多いと予想される病害虫

【もも】 せん孔細菌病

【なす】 褐紋病

【あぶらな科野菜】 【野菜・花き類】 シロイチモジヨトウ

- ・せん孔細菌病は、病原菌が園内で越冬しますので、発生時には収穫後も防除を行うほか、被害葉や被害果実などを園外に持ち出して処分することが重要です。
- ・害虫は発生初期の防除が重要です。
- ・シロイチモジヨトウがキャベツで増加しています。注意深くほ場を観察し、発生を確認したら防除を行いましょう。防除方法については防除情報「ヨトウムシ類に注意！」（9月25日発表）<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojyouhou/R0109yotoumushi.pdf>を参照してください。

■今後防除が必要な病害虫

【あぶらな科野菜（キャベツ・だいこん等）】 ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

- ・定植直後の苗の芯葉を食べ、株が芯止まりになるため、食入前の初期防除を徹底する。また育苗時のかん注剤処理や定植時の粒剤の効果は3週間程度しか持続しないため、それ以降はほ場を巡回し、発生を確認したら薬剤散布による防除に努める。

■地域により発生が増えており、今後の発生に注意が必要な害虫

【水稻】 ジャンボタニシ

【もも、うめ、すももなどバラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ

《(参考)10月の気象予報》(大阪管区气象台9月26日発表)

気温	低い (10%)	平年並 (20%)	高い (70%)
降水量	少ない (30%)	平年並 (30%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (30%)	多い (30%)

(詳細は、一覧表参照)

A 果樹

1 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果実や枝病斑は、感染源となるためほ場外へ持ち出し、適切に処分する。 ・病原細菌の越冬密度を低下させるため、発生の多かったほ場では10月にICボルドーなどを散布する。
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域において発生が確認されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は4月～10月頃にフラス（中華麺～うどん状に固まる木くず等の混合物）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 <p>※「クビアカツヤカミキリに注意！」（5月7日発表）参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/H3105kubiaka.pdf</p>

2 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、両剤とも、かんきつ（みかんを除く）では収穫90日前までなので注意する。
ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・10月の気温は高いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。

3 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年より少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

B 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
褐紋病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多雨により、まん延しやすい。 ・生育の適温は30℃前後である。 ・ほ場内の排水を良好にし、窒素質肥料が過用とにならないよう注意する。 ・胞子の飛散により発生が拡大するので、発病した葉や果実、枝は直ちにほ場外へ持ち出して処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子伝染するので、自家採種を行う場合は十分に注意する。
アザミウマ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・ハウス栽培では、開口部を被覆して成虫の侵入を防止する。0.8mm目合の赤色ネットは、0.4mm目合の白色ネットと同等の効果がある。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミナミキイロアザミウマのなす果実(水なす、千両なすとも)被害はがくの内側の果面が褐変し、筋状の傷が広がる。多発すると果面全体に傷が広がり、褐変する。 ・ミカンキイロアザミウマの水なす果実での被害は、果頂部に円形状の脱色斑点が生じ、ひどい場合は果頂部全体が着色不良になる。

2 あぶらな科野菜 (キャベツ・しろな等)

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
根こぶ病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年と同様に確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場は避ける。 ・あぶらな科野菜の連作を避ける。 ・早植えを避ける。 ・土壌pHが低い(酸性)と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH6.5～7に調整する。 ・前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーでは定植前に、<u>ネビリュウ</u>や<u>オラクル粉剤</u>を土壌混和する。

コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 ・予察灯への飛来虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、薬剤抵抗性の系統が増加している。 ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・予察灯への飛来虫数は、平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。 ・定植直後の苗の芯葉を食べ、株が芯止まりになるため、食入前の初期防除を徹底する。
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防除方法については「ヨトウムシ類に注意！」（9月25日発表）参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0109yotoumushi.pdf

3 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。 ・発生初期の防除を徹底する。 ・草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。 ・QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)の連用は避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は、日照不足、他の病気に比べて乾燥条件下で多発する。
炭そ病・褐斑病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋口に急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、一晩で病気が蔓延することがあるので、天気予報に注意する。 ・ハウス内の多湿状態を避ける。 ・窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。 ・QoI 剤(アミスター、ストロビーなど)の連用は避ける。

べと病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋口に急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、一晩で病気が蔓延することがあるので、天気予報に注意する。 ・ハウス内の多湿状態を避ける。 ・肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。 ・QoI 剤(アミスター、ストロビー、ホライズン)の連用は避ける。
ウリノメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの開口部をネット等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・食害株の幼虫を捕殺する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス抑制栽培の定植直後に発生が認められることが多い。
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多発すると虫の排泄物とその上に発生するすす病で、葉や果実が汚れる。
ミナミキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。特に、赤色ネット(0.8mm 目合)による侵入防止効果は高い。

4 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病に感染すると治療薬はないので、感染株は、すぐにほ

		<p>場外に持ち出し適切に処分する。</p> <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介する。
葉かび病・すすかび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。 ・下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

D 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の除草に努める。 ・施設栽培では、開口部をネット(0.8mm 目合)で被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ウイルス病害が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルスには、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。
ハダニ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除を徹底する。 ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・卵～成虫の各ステージに応じた薬剤を選定する。
ハスモンヨトウ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数はやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防除方法については「ヨトウムシ類に注意！」(9月25日発表)参照。 http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyojouhou/R0109yotoumushi.pdf

オオタバコガ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップによる誘殺虫数はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉や花に発生している幼虫を見回って、発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。穴のあいた果実は内部の幼虫を殺してから処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1頭の幼虫が次々と果実に侵入するため、発生が少なくても被害が大きい。
--------	---------	---

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/> 最新の防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ
メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

※年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。(情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です)

●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所
企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

※最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」(大阪府植物防疫協会)

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>